

平成27年9月9日

「震災遺産とふくしまの記憶」展およびシンポジウムの開催

福島県立博物館を中心に組織されたふくしま震災遺産保全プロジェクトが、次世代に震災の歴史を伝える歴史的資料として調査・収集してきた震災遺産を、福島大学にて展示公開することになりました。あわせて、シンポジウムを開催いたします

会期等：平成27年9月26日(土)～10月6日(火) 9:30～16:30 入場無料

※初日は10:30～のオープニングセレモニー終了後に開場

会場：福島大学うつくしまふくしま未来支援センター3階・4階

関連事業

○オープニングセレモニー

9月26日(土) 10:30～

赤坂憲雄福島県立博物館長、中井勝己福島大学学長、中田スウラ福島大学うつくしまふくしま未来支援センター長

○展示解説会(各30分)

①10月3日(土) 13:30～, 15:00～ ②10月6日(火) 12:30～, 14:00～

○シンポジウム ふくしまの震災関連資料の保全と活用

日時 9月26日(土) 13:00～16:30

会場 福島大学 M4教室 入場無料、事前申し込み不要

内容 司会進行 阿部浩一(福島大学)

講演1 高橋満氏(福島県立博物館)「ガレキから「我歴」へ
ーふくしま震災遺産保全プロジェクトの活動ー」

講演2 白井哲哉氏(筑波大学)「双葉町と筑波大学による震災資料保全の取り組み
ー何が残されているのかー」

講演3 鈴木典夫氏(福島大学)「避難所の記録が後世に活かされるために
ー福島大学避難所48日間ー」

対象 一般市民、本学教職員・学生

主催 ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会、福島大学

共催 福島大学資料研究所

後援 ふくしま歴史資料保存ネットワーク、福島民報社、福島民友新聞社

(お問い合わせ先)

うつくしまふくしま未来支援センター事務室

電話：024-504-2865

E-mail:fure@adb.fukushima-u.ac.jp

ふくしま震災遺産保全プロジェクト アウトリーチ事業「震災遺産を考えるⅡ」
福島大学セッション「震災遺産とふくしまの記憶」開催記念シンポジウム

ふくしまの震災関連資料の保全と活用

開催趣旨

福島大学では、ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会のアウトリーチ事業である「震災遺産を考えるⅡ」展を、9月26日（土）～10月6日（火）の11日間にわたり、福島大学うつくしまふくしま未来支援センターを会場に開催する運びとなりました。それを記念して、開催初日の9月26日にシンポジウムを開催することにいたします。

シンポジウムでは、震災の歴史を後世に伝えるさまざまな資料について理解を深め、その保全・活用の意義について考えるため、3名の方にご登壇いただきます。

福島県立博物館の高橋満氏は、先の実行委員会の中心メンバーとして、旧警戒区域での震災遺産の保全活動および展示での普及活動に取り組まれてきました。現場での体験を通じて考えた「震災遺産」とはいかなるものか、そしてそれらを保全することの意義と課題についてお話いただきます。

筑波大学の白井哲哉氏は、2013年に双葉町役場が埼玉県加須市からいわき市に移転するにあたり、役場内に残された震災関連の資料や、併設されていた避難所の資料保全と整理に関わってこられました。最近では、双葉町内での避難所の現状記録も開始されており、こうした震災関連資料を保全することの意義についてお話いただきます。

福島大学の鈴木典夫氏は、東日本大震災後に福島大学内において学生ボランティアとともに避難所を立ち上げ、多くの避難者を受け入れてきました。その活動の紹介を中心としながらも、保全された避難所資料についても適宜ご紹介し、大学にとっての震災関連資料のもつ意味についてもお話いたします。

以上の3名のご報告をいただいたのち、ふくしまの震災関連資料の保全と活用の意義について議論を深めていければと考えております。多くの皆様のご来場をお待ちしております。



ふくしま震災遺産保全プロジェクト アウトリーチ事業「震災遺産を考えるⅡ」

福島大学セッション

震災遺産とふくしまの記憶

「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」は震災が産み出したものを、次世代に伝え遺すべき歴史的資料すなわち震災遺産と位置づけて、その保全を図ることを目的に、フィールド調査や資料を収集する取り組みを進めています。アウトリーチ事業「震災遺産を考えるⅡ」ではこのプロジェクトの活動を県民のみなさんに紹介するとともに、震災遺産について関心を高める機会として、今年度は福島大学を会場に開催いたします。学生・教職員の皆さまや地域の方々に当プロジェクトの活動及び収集資料をご覧くださいことで、震災の歴史を後世に伝えていくことの意義を共有する機会にしたいと思います。

会 場 福島大学

会 期 平成27年9月26日（土）～10月6日（火） ※入場無料

展示会場 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター（3F・4Fリフレッシュルーム）

関連事業 平成27年9月26日（土）

■オープニングセレモニー 午前10時30分より 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター ＊式典終了後、展示解説会を行います。

■記念シンポジウム「ふくしまの震災関連資料の保全と活用」午後1時より 福島大学 M4教室（入場無料 申し込み不要 先着150名）

「ガレキから「我歴」へーふくしま震災遺産保全プロジェクトの活動ー」 福島県立博物館 高橋 満

「双葉町と筑波大学による震災資料保全の取り組み 一何が残されているのかー」 筑波大学 白井 哲哉

「避難所の記録が後世に活かされるためにー福島大学避難所48日間ー」 福島大学 鈴木 典夫

- 主 催 ふくしま震災遺産保全プロジェクト・福島大学
- 共 催 福島大学資料研究所
- 後 援 ふくしま歴史資料保存ネットワーク、福島民報社・福島民友新聞社

- ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会構成団
福島県立博物館 相馬中村層群研究会
南相馬市博物館 双葉町歴史民俗資料館
富岡町歴史民俗資料館 いわき市石炭化石館
（公財）ふくしま海洋科学館 いわき自然史研究会

- ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会事務局

福島県立博物館

〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25

電話：0242(28)6000

FAX：0242(28)5986



平成27年度文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

福島大学セッション 震災遺産とふくしまの記憶



1. 開催趣旨

東北地方太平洋沖地震は、福島県内に甚大な被害をもたらし、原発事故も引き起こしました。人命を奪い、建物や街並みを破壊し、膨大な瓦礫を発生させ、震災から4年半を迎えようとしている現在でも、その傷跡が県内各地に残っています。また避難所や仮設住宅、除染物質の集積など新たなモノ・コトそして非日常の景観を生み出しています。

様々な形で各地に残り、また遺されてきた東日本大震災を物語る資料は、これまでに保存や整理、記録化などの活動を通して少しずつ保全が進められてきました。今回の福島大学セッションでは、当プロジェクトの活動を展示を通してご覧いただきながら、合わせて各地で行われている取り組みをシンポジウムでご紹介します。震災という未曾有の出来事を後世に伝えていくために、同時代を生きる我々ができることは何なのか、多くの方々と一緒に考えたいと思います。

2. 会 期 平成 27 年 9 月 26 日 (土) ～ 10 月 6 日 (火) 9:30 ～ 16:30

(※9月26日(土)はオープニングセレモニー終了後に開場いたします。)

3. 展示会場 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 3F・4F リフレッシュルーム

4. 関連事業

■オープニングセレモニー

日時：平成 27 年 9 月 26 日 (土) 10:30 ～ (※式典終了後、展示解説会を行います。)

会場：福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

福島大学学長	中井 勝己
福島大学うつくしまふくしま未来支援センター長	中田 スウラ
福島県立博物館館長	赤坂 憲雄

■記念シンポジウム「ふくしまの震災関連資料の保全と活用」

日時：平成 27 年 9 月 26 日 (土) 13:00 ～ 16:30

会場：福島大学 M4 教室 (入場無料 申し込み不要 先着 150 名)

日程：13:00 開会の挨拶、趣旨説明	司会：福島大学	阿部 浩一
13:10 「ガレキから「我歴」へーふくしま震災遺産保全プロジェクトの取り組みー」	福島県立博物館	高橋 満
13:50 「双葉町と筑波大学による震災資料保全の取り組みー何が残されているのかー」	筑波大学	白井 哲哉
14:30 「避難所の記録が後世に活かされるためにー福島大学避難所48日間ー」	福島大学	鈴木 典夫
15:10 休憩		
15:30 ディスカッション		
16:30 閉会の挨拶		

■展示解説会 (各 30 分)

日時：平成 27 年 10 月 3 日 (土) 13:30 ～、15:00 ～、10 月 6 日 (火) 12:30 ～、14:00 ～

会場：福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 3F・4F リフレッシュルーム

■福島大学への交通・アクセス

●電車「福島駅」よりJR東北本線「金谷川駅」下車 徒歩5分
 ≪福島駅から2つ目(所要時間約10分)、郡山駅から8つ目(所要時間40分)≫



■福島大学内地図



*ご来場の際はできるだけ公共交通機関をご利用ください